

令和4年度

仙台市国民健康保険事業特別会計

予算案(概要)について

1 令和4年度予算編成について

(1) 被保険者数・世帯数

近年の推移から被保険者数、世帯数ともに減少する見込みである。

(2) 歳出

・保険給付費

被保険者が減少傾向の一方、一人当たり医療費は増加傾向となっており、令和4年度は医療費全体としては、令和3年度当初予算に対し増加する見込みである。

・国民健康保険事業費納付金

県は、県内各市町村の保険給付に要する費用、後期高齢者支援金、介護納付金等を支出することとなっており、県内各市町村はその財源として国民健康保険事業費納付金を県に納付する。当初予算編成においては、県から示されている納付金額を歳出予算として計上している。なお、令和4年度は、県の歳入である前期高齢者交付金が減少する見込みであること等から、国民健康保険事業費納付金は前年度と比較して増加する見込みである。

(参考: 国民健康保険事業費納付金の年度間比較)

	国民健康保険事業費納付金
令和3年度(本算定ベース)	23,359,741千円
令和4年度(本算定ベース)	24,330,421千円
差引	970,680千円

(3) 歳入

・国民健康保険料

震災特別調整交付金に係る基金の取崩し額の減少に伴い、増加する見込みである。

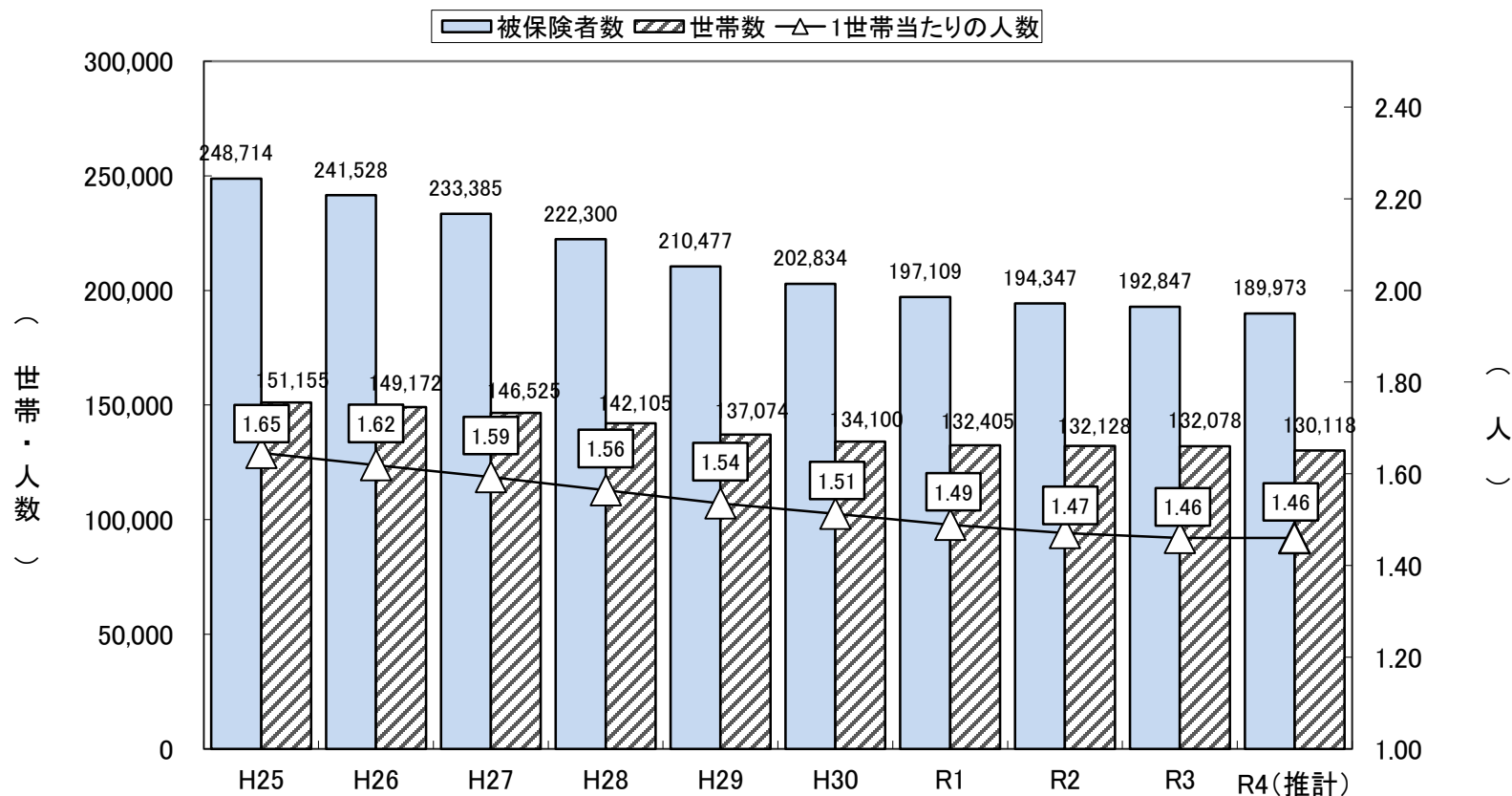
・基金繰入金

保険料の上昇を抑えるため、事業費納付金の前年度増額分に財政調整基金を充当することから、基金取崩額は増額する見込みである。

・一般会計繰入金

国による未就学児均等割保険料の軽減措置の導入に伴い、保険料収入の減少分に一般会計繰入金を充てるため、昨年度よりも一般会計繰入金は増額となる見込みである。

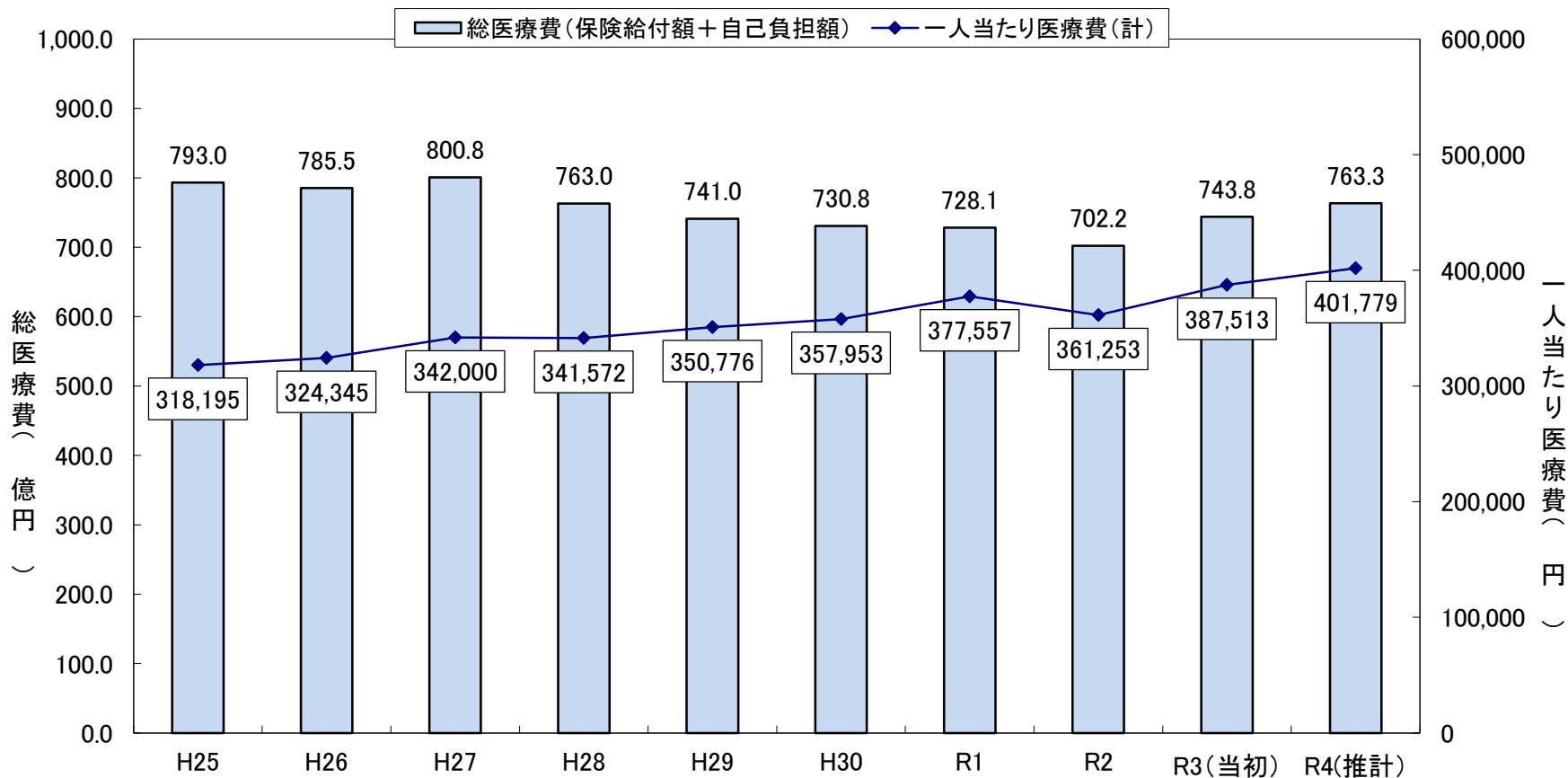
2 被保険者数・世帯数の推移



注1) H25～R2は各年度の4月～翌3月平均。R3は4月～12月平均。R4は予算編成時の推計。

注2) 一般被保険者＋退職被保険者

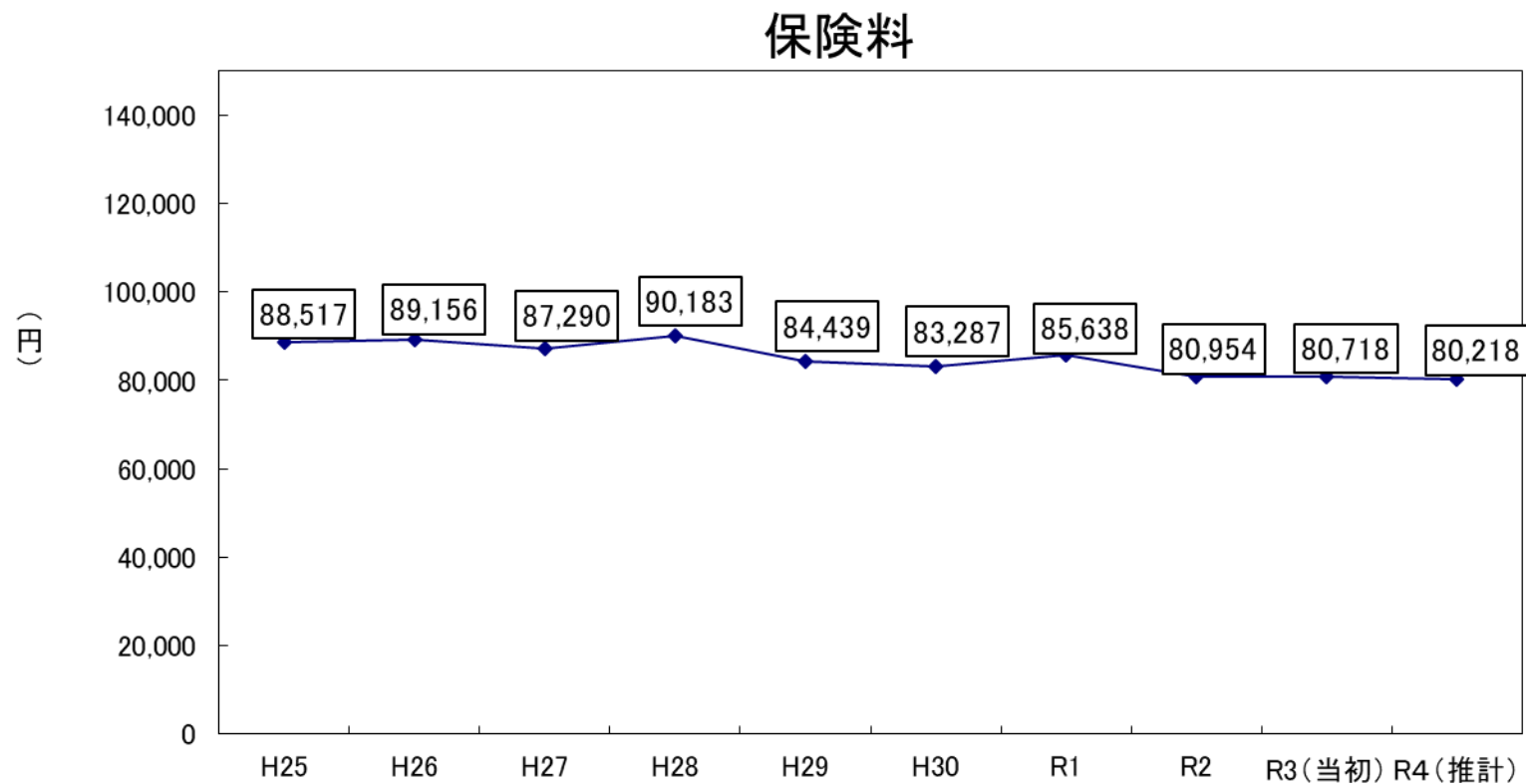
3 医療費の推移



注1) 総医療費は、H25～R2は各年度の実績。R3は当初の見込。R4は予算編成時の推計。

注2) 1人当たりの医療費は、一般被保険者+退職被保険者により算出。

4 被保険者一人当たりの保険料の推移（介護分除く）



注1) H25～R2は各年度の実績。R3は当初の見込。R4は予算編成時の見込。

注2) 保険料＝医療分＋支援分(40～64歳の被保険者については、これに加えて介護分の保険料が賦課される)

5 国民健康保険事業財政調整基金の活用状況

Ⓐ 震災以降交付された国の特別調整交付金に係る取崩し

R4取崩額 **345,128千円**

震災以降交付された国の特別調整交付金に係る剰余金による積立分の残額(約4.5億円)については、令和5年度に取り崩しを完了する。

令和6年以降は、令和2年度決算で生じた剰余金の積立金を、令和5年度と同程度で取り崩し、保険料額にできるだけ影響しないよう平準化する。

Ⓑ その他前年度剰余金に係る取崩し

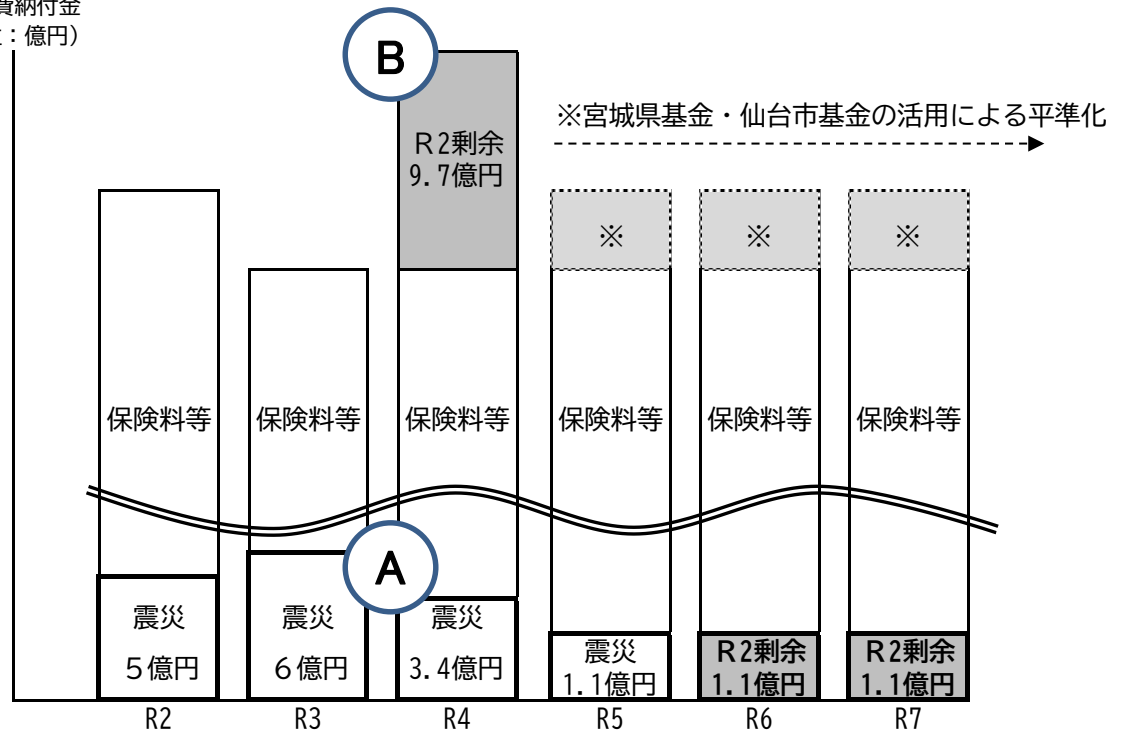
R4取崩額 **970,712千円**

その他の要因による剰余金については、原則として、県から示される国民健康保険事業費納付金の水準等を勘案しながら、翌々年度以降において取崩しを行う。

今回、令和2年度決算で生じた剰余金から基金に積み立てた約14.3億円のうち、令和2年度医療費の減少に伴う国からの交付金の減少と、令和3年度の医療費の増加を考慮した事業費納付金の対前年度増額分として、約9.7億円の取崩しを行う。

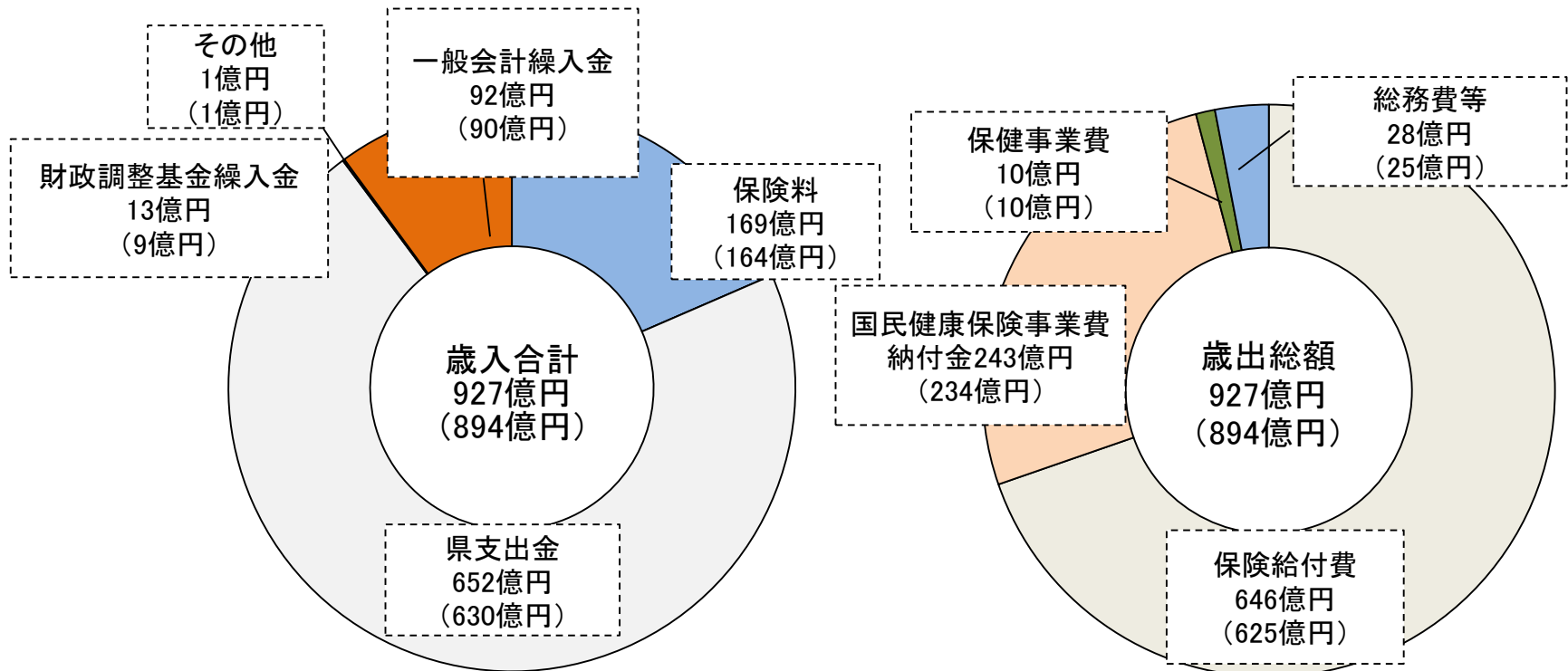
事業費納付金
(単位：億円)

【 納付金イメージ図 】



令和4年度当初予算における取崩額 **Ⓐ+Ⓑ = 1,315,840千円**

6 令和4年度 国民健康保険事業特別会計予算案



注)各項目の()内の数値はR3年度当初予算額